

Die (友情) Freundschaft

事務局：
〒010-1632 秋田市新屋大川町 12-3
秋田公立美術大学 野村研究室
<http://www.jdg-akita.org>
(018)888-8110
nomura@akibi.ac.jp

旅二、三題

理事 高堂 裕



旅をしていると、時々「ポカ」をします。

記憶に残る最初の大きなポカは、四十五年ほど前の、Zurich を起点に始めた旅もひと月ほど過ぎての Wien Hauptbahnhof で起こりました。それまでと同じく、駅に着いて Münzschließfächer に Koffer を預け、その夜からの Hotel 探しに出発しました。2、3 軒飛び込んで決定し、身軽なそのまま市内をぶらぶらし、午後しばらくして駅にもどりました。鍵を回し扉を……。ありません！もぬけの殻です！はてさて、どうしたものか？何をなすべきか？頭の中を「？」がグルグル回ります。係員は？窓口は？見つけられません。現金と旅券は手元にしてあったのは幸いでした。仕方なく Polizist を探しました。飛び込んだ詰め所は管轄外の Die Eisenbahn-Polizei で、わたしが鍵を持ってましたから、駅内 Polizeistation に回され、状況や形状を聞かれましたが、当然満足な返答ができない私に業を煮やしたのか、(親切にも) Fundbüro へ案内されました。やはりここでも状況や形状の説明は大汗ものでした。拙い絵と掌中英語辞書とで形と色、中身などを説明しました。結論から云うと、スーツケースはすぐ見つかりました。係の青年は事情を把握し数カ所に電話した後、わたしを連れて歩き出しました。一般客の通らぬ構内地下に潜り、通路を数分、広大な遺失物保管庫でした。探して五分くらいで、うれしや、見つかりました。

紛失の状況は斯うです。-----わたしが施錠したロッカーは隣のそれだったのです。鍵穴は扉ではなく、扉と扉の間にあったのです。機械式の古くて頑丈な扉は、わたしの日本式チョイ引きくらいの力では、閉まっていないのにチャンと閉まったように、わたしがポカしたものでした。田舎のマリー何とかと云うご婦人がそれを見つけ係に届けてくださったものでした。婦人には帰国後お礼状と御殿鞆を送

ったものでした。

此の旅行以後、Reisekoffer の写真を携帯するようになりました。寸法も入っています。今では Funktelefon にも入れてますが、数年前にもこの写真で助かったことがありました。台北松山機場で妻がスーツケースをピックアップせずに出発して仕舞ったとき、その写真を見せて(逆入出来ませんから)取って来てもらったことがありました。

昔によくありました荷物の不着と紛失に備え(飛行機で三度ほど経験があります。三度とも二、三日でホテルに届けられましたが。)、移動時、大事な物は絶対預けないことには今でも留意しております。後遺症で今でも荷物が出てくるまではハラハラします。



スーツケース

「ヤられる」こともたまにあります。財布の中身はほぼカラですから(カード以前は身体 5、6ヶ所に現金や TC を分散させていました。)まア、悔しいです、で大団円です。

掏られたことが一回、これは Roma の Spanische Treppe で。お約束みたいな、見事な見事な手際でした。土曜日の夕方、警察が閉まっていて、盗難証明をもらう為に三カ所盤回しさせられたのが、面白い経験でした。中身より燻し印伝の財布が残念だったので、以後 Italien では財布を持たないことにしております。Zigeuner/Roma 絡みも五、六回ありました。私の実害はありませんでしたが、一回だけ同

行の会長さんが 50 万円ほどヤラれたことが Köln でありました。女の子が掏った財布が、いざこざのうち仲間内を回って行方不明になるという典型的なもので、事情聴取で警察署に二時間ほど居たのが、昔の刑事物の Kino のようで、印象的でした。

30 年数年前、Prag から Franz-Kafka 号で着いた München でのことです。Hauptbahnhof を出て間もなくの小公園で Roma のオバさんに絡まれたことがありました。やり過ぎて、足早に二、三回小路角を曲がった所で、その電気屋と出会いました。秋葉原の電気部品屋みたいな店でした。何気なく入って、少し興奮しました。TELEFUNKEN、Siemens や OSRAM、Britannien の Mullard、Niederlande の Philips、Tschechien の TESLA など欧州古典真空管があったからでした。秋葉原をはじめ日本で当時入手できる多くは、アメリカ規格が殆どでした。少し金欠病の私の一回目の買い物は Bosch の Plastikfolie-Kondensator でした。Elektromotoren の進相用だと思のですが、アルミ外装の立派なものでした。

一年後ほどに亦 München を訪問、Schwanthalerstraße の Deutsches Theater 近くのその店で五本の古典管を買いました。それから十年間くらいで五、六回、行く度に通いました。滞在中毎日立寄ったこともありました。でも二十余年ほど前にその閉店を知りました。界限に Ethno-Küche の店が増え、Supermarkt でも変わった Zutaten を見かけるようになっていました。近所の Teehaus で、店番の Teilzeitarbeit のオジさんと真空管や Bier の話を楽しんだ思い出もあります。Deutsches Museum には絶対行くべきだと奨めてくれたのは彼でした。Pinakothek der Moderne/Die Neue

Sammlung も彼だったような…。

写真撮り中心の楽しかった旅は意外に早く忘れ、旅の失敗や災難は、終われば「楽しい思い出」に変容することがあります。お得な旅の仕方だと思います。四、五回訪れた、Paris。最初の訪問時はひと月ほど居たのに、Eiffelturm に登ったのは一昨年妻と行った折が初めてでした。名所旧跡はいつでもあるぞ、日々変わりゆく街や人をこそ楽しむのが好きだ、ト云いながら Weihnacht の電飾の Turm に感動し、妻に笑われました。Triumphbogen もそうでした。カード社会になり、E-Ticket になり、快適便利になりましたが、Kambodscha や Thailand の田舎に泊まれば、亦異なった感慨を覚える昨今です。

今回の執筆（ト云うほど大層なものではありませんが）にあたり、最初 Sudetenland の話か Grand Canyon の思い出にしたかったのですが、研究中且つそぐわれないという理由から、まとまらない話でお茶を濁してしまいました。お許してください。



欧州古典真空管



Eiffelturm (エッフェル塔)

《会員よりご寄稿いただきました》

ドイツ大使館・大使公邸での「秋祭り」に参加 学生会員（秋田公立美術大学）

嶋崎麻莉亜

9月17日に在日ドイツ連邦共和国大使館・大使公邸（東京都港区南麻布）で開催された「秋祭り」に参加しました。

この会合はハンス・カール・フォン・ヴェアテルン駐日大使のご厚意で開催され、全国各地の若手日独協会会員が集う、まさに「ドイツ好き」があふれる会となりました。それぞれ異なる地域で日独関係の促進のために行っていることの近況の報告や歓談など、ビュッフェを頂きながら懇親を深められる

とてもステキな一時でした。今回は秋田日独協会からの参加は私一人でしたが、参加者の中で最北と紹介もあり、いろいろな方が気軽に話しかけてくださり緊張せずに参加を楽しむことができました。

9月の半ばということもあり東京はまだ暑さの残る天候でしたが、ドイツ大使公邸の裏にある美しい日本庭園や受付後のウェルカムドリンクで涼しい気持ちで迎えることができました。

開会のあいさつが終わるとビュッフェスタイルの季節を彩った食事と共にドイツビールやドイツワインを頂きながら大使館勤務の方々や他協会の参加者と交流しました。最年少者には高校生もおり、学生も多く、秋田日独協会においても是非ドイツの魅力を若者にも伝え、学生の参加者もさらに増や

たいと思いました。

今後も秋田だけではとどまらず、このような全国の日独関係の交流にも積極的に参加し、より「ドイツの魅力を伝える、知る」ことに力を入れたいと考えました。



駐日ドイツ大使との懇談



季節の料理が並ぶビュッフェ



最後に参加者全員と集合写真

《秋田市国際フェスタ 2018 に参加》

2018年10月6日(土)、秋田拠点センターアルヴェエ1階「きらめき広場」で「秋田市国際フェスタ2018」が開催されました。秋田日独協会は、パッサウ市紹介ブースを担当しました。パッサウ大学からの留学生と秋田在住のドイツ人にも手伝っていただきました。

ブースには、ドイツに興味のある人が多数立ち寄りました。その中には、姉妹都市提携前にパッサウ市へ派遣された合唱団に、祖母が参加したという人もおられました。

今回は、このイベント用に秋田市オリジナルパスポートが会場で配られたので、「各国のスタンプを

パスポートに押しつけて世界一周」をめざす方もブースに来られました。



パッサウ市紹介のブース

《「カールスルーエ合唱団」 歓迎会を開催》

2018年8月28日（火）18時からアキタパークホテルで、定時総会に引き続き、カールスルーエ独日合唱団”デア・フリューゲル”の歓迎会を開催しました。

合唱はドイツ語の曲のほか、「上を向いて歩こう」を日本語で披露してくださいました。また、秋田なつメロ会の方々にもご参加いただき、「東京ラブソング」などを歌っていただきました。



カールスルーエ独日合唱団
”デア・フリューゲル”合唱の様子

本協会会員およびホストファミリーの方々が42名、合唱団員34名、秋田なつメロ会の方々が10名の合計86名が参加し、最後は全員で秋田県民歌を合唱し盛大に幕を閉じました。

翌日、合唱団一行は秋田公立美術大学附属高等学院を訪問し、合唱とものづくりを通して学院生徒と交流しました。



秋田公立美術大学附属高等学院を訪問

《2019年の予定》

- ・2月：ニュースレターNr. 10 発行
- ・2月9日：新年祝賀会（ビアレストラン「プラッツ」）
- ・7月上旬：定時総会
- ・10月22日～29日：姉妹都市提携35周年記念パッサウ市訪問
（6月中旬頃から訪問団員を募集します。今回は、チェコの首都プラハも訪問します。）
- ・11月16日：「秋田市国際フェスタ」参加

ドイツ語で格言・諺：Eine Erkältung kommt drei Tage, bleibt drei Tage und geht drei Tage.
風邪は、三日で来て（罹り）、三日間滞在し（症状があり）、三日で去る（治る）

《編集後記》

カールスルーエ合唱団との交流は、一昨年に本協会員が同市に滞在したときに知り合った方との縁がきっかけとなり実現しました。こうして交流が広がっていくのは本当に喜ばしいことです。今年の秋にはいよいよパッサウ訪問があります。交流拡大のチャンス到来です！

会員の皆さんからの寄稿やメッセージ、そして、ドイツに関する話題などを広く募集します。送り先は、表紙の事務局の住所へ、または、メールにてお送りください。

法人会員

(株)秋田魁新報社様・(株)JTB 東北秋田支店様・(株)東北 i ツアーズ様・(株)日本旅行東北秋田支店様